

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	I 理念に基づく運営			
	1. 理念の共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	関連施設事業所内で理念をつくり地域に溶け込んでいける様掲げている。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	スタッフルームに貼り出し、いつでも目につくようにしている。また名札の中にミニサイズのものを作り携帯しており毎月理念を元に介護目標を立てている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関にも貼り出し家族他来訪者に理解してもらうようにしている。地域の行事に参加した時は家族にも伝えている。		
	2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日常的に挨拶を交わし、畑の手入れや栽培方法などのアドバイスを頂くこともある。竹炭、野菜、花を頂いたり、食事の残りを鯉のエサとして提供している。近くに花菖蒲を栽培している方がおられ、毎年入居者と見学させてもらっている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	夏祭りには入居者と共に参加、地域の代表者等から出店の無料サービス券を頂くなど気遣いを頂いている。道路や公民館の清掃活動は職員のみ参加。年2回の施設主催のバーベキューには回覧板を利用し地域に声掛けし、回ごとに新しい住民の方が参加されコミュニケーションが増えている。		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域で高齢者がおられる家庭に出向き、何か役に立つことがあればご相談くださいと話している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善すべき項目毎に分けひとつひとつをチェックしながら同時並行で見直し作業中。その都度できることはすぐ実行している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	徐々にサービス向上につながる意見が増えてきており、結果を全職員へ報告しサービスの参考にしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市へ行く機会が少しずつ増えている。紙おむつ給付などサービス提供を利用するようになり家族の負担を少なくなるよう工夫している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	新人職員など一部の職員が勉強会に参加できていない。	○	勉強会を通して必要性の理解を高めていく。
11	○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待行為をしないということを、当然のことと理解しているが、言葉での虐待についてミーティングしている。		
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時や、契約前に家族及び本人と充分に話し合いを持ち、平易な言葉や実例を出して説明、不安点など解消された上で契約している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から利用者とは話しやすい雰囲気にしており、コミュニケーションをとりづらい利用者には家族とのコミュニケーションを大切にし、相談や不満など聞き出すようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月一回「我楽ちくしのだより」を発行し暮らしぶりや健康状態など知らせている。金銭管理の報告は面会時支出内容残高の報告をし、年始に前年一年間の領収書と共に入出金の報告をしている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にポスター、意見箱を設置しているが意見は全く出ていない。苦情も出ないが、希望要望は口頭にて時々聞いている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は主任会議、全体会議において話し合いを持ち、また記名、無記名方式で職員の意見を聞き、可能なことから運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	急な状況の変化の場合、緊急連絡網にて集合できるよう体制を整えている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職により馴染みの職員が替わる場合は、職員は安全な材質のネームプレートをつけており、名前をすぐに呼んでもらえるようにしている。また事前に入居者個々の情報を伝え好みの話題などで馴染むようにしている。		
	5. 人材の育成と支援			
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別はもちろん、20歳ぐらいから60歳台まで幅広く採用。一人ひとりの特性(性別・性格・年齢)を活かし能力を発揮し、安心して働けるように配慮している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の現場で言葉遣いや接し方、心情など具体的に話し教育している。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階的な計画は立てていないが介護保険法上、必要な資格のための研修は当然のこと、他の研修も積極的にすすめ、研修日は勤務扱いにしている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入し、主催の研修に都合のつく限り参加し、他事業所の話聞き、役立つところは参考にさせてもらっている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	概ね2ヶ月に1度、慰労会を開催し全社員にゲームを含めたプレゼントを提供している。(代行やタクシー代も支給)また1～2ヶ月に1度NP〇法人の臨床心理士に訪問してもらい職員のカウンセリングを実施している。		
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	能力や実績にあわせ給与の一部を職能給とし向上心を持てるようにしている。医学書や介護に関する参考本も揃えて、職員がいつでも利用できるように準備している。		
	II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前に家族、本人より出来る限りのサマリーをとり事前に把握するように努めている。また1週間以内の体験入居を利用するよう提案しお互いの不安を少しでもなくすようにしている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	前項同様、家族よりの聞き取りを行っている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要と判断した場合、主治医とは別に希望があれば他医院等の受診、サービスを継続して行っている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を実施し、お互いに馴染めるよう家族や本人と相談しながら工夫している。		
	2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の下準備や庭の手入れなど昔話を聞きながら参考にさせてもらっている。		
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時、または電話等により情報交換したり、相談しあいながら共に支えあっている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	情報交換により、これからの関係がより良く保てるよう支援している。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望を聞き本人の行きたい場所に同行している。入居前まで利用していた店や病院など。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	こもりがちな入居者への声掛けを行い他入居者との橋渡しを行っている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	継続的な関わりを必要とするケースはなかった。	○	場合に応じて年賀状などお便りを出すことから始めたいと思っている。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お菓子を好きな方、清涼飲料水を好きな方はおやつ以外の時間でも、渡すようにしている。昼寝を自室でしたくない人はリビングに簡単な寝具を置き横になってもらっている。		
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のサマリーや本人、家族の情報で経過の把握に努めている。また会話の中で生活歴の把握をするよう全職員に伝えている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	申し送り、記録、状態によっては話し合いながら一人ひとりの把握をしている。	○	話し合いを増やす。
	2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を取り入れているが、充分活用するまでには至っていない。介護計画は、職員が意見やアイデアを出す機会を設け各自出し合い作成している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直し、変更は適せん対応するように心がけている。関係者、家族、関係者へは来設事または後日報告する事が多い。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は毎日行っており申し送りで職員間に情報伝達し共有して実践に活かしている。	○	気づきをもっと記録する。以前からの流れを断ち切らないよう記録していく。

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、馴染み関係を大切にしながら事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診、買い物、外泊など要望に応じて支援している。		
	4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	一人ひとりの意向に応じて少しずつ行っている。地域の民生委員をはじめ福祉関係者からの話を聞くなど。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	事業所の他のケアマネジャーと話し合いを持つことはない。市への問い合わせ等により紙おむつ支援サービスを利用している。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月に1回運営推進会議において話し合っている。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所かかりつけ医と相談しながら、家族本人の希望があれば他の医療機関も利用できるようにしている。		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	事業所かかりつけ医にのみ相談している。		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	地域の看護職との接点はないが介護、看護職員は日常的に相談しながら健康管理をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時は、ほぼ毎日お見舞いに行き早期退院に向け病院関係者、家族と情報交換、相談をしながら対応している。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時、契約書を交わす時点でまず家族の意向を確認しサインを頂いている。その後は定期的に確認している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度、終末期の利用者に対して家族、かかりつけ医と共に話し合いよりよく暮らす為の支援に取り組んでいる。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む事例がない。		
	IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員間で言葉かけや対応について話し合い、記録や個人情報は外部に出ないように徹底している。		
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	行動する前に必ず声掛けをし、返事、反応をみてから介助している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今は食べたくない、今はお風呂に入りたくないなど言われた場合、一人ひとりのペースに合わせて支援している。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
	(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の希望する店に行くようにしているが、待ち時間の心配や他のお客様に気遣いをされ、施設の訪問理美容を利用されるかたが多い。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	力に合わせ食事前のテーブル拭き、茶碗拭きなど一緒にしている。職員が同じテーブルにつき必要な方には介助をしながら同じものを食べている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲物やお菓子は毎日、お酒は体調面を考慮し、催事の時少しだけ楽しんでもらっている。		
58	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンをチェック表にて把握し、紙パンツ使用の方でもトイレでの排尿ができるよう誘導している。		
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日と時間帯は大体決めているが、入浴日以外でも運動などで汗をかいたり失禁の際はシャワー浴や入浴できるよう支援している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	施設側の生活パターンを最小限にし、個別の生活パターンを大切にしている。いつでも居室で休息でき、またリビングにソファを置き自由に休むことができるようにしている。		
	(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	大正琴・ハーモニカで楽しんで頂いたり嗜好品を用意して喜んでもらっている。また力に応じ洗濯物たたみ、料理の下ごしらえ、買い物の荷物持ちなど自ら手伝って頂いている。GH協議会の文化祭ではホールで生け花をして頂き他のGHの入居者や職員に褒めてもらい、やりがいのあった。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のところ、所持している方はいない。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ぎず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があった場合は極力、ない場合でも個別や全員でドライブや散歩等に出かけたり、外食を楽しんでもらったりしている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	定期受診の帰りなど、個人の希望に添って甘いものを食べに寄り道したり、全員で外出する計画を立て、花見など外で食事する機会を作っている。		
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があった場合は電話をして直接はなしてもらっている。また力に応じ暑中ハガキなど自筆で書いてもらっている。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	曜日、時間を問わず気軽に訪問できるようにしている。居室、リビングなど好きな場所で過ごせるよう配慮している。		
	(4) 安心と安全を支える支援			
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	車イスの腰ベルトなど目に見える拘束はもちろん精神的な抑制につながる言葉かけをしないよう理解し、職員全員で気をつけている。	○	言葉かけについては、ミーティング、勉強会等でさらにそれぞれの入居者を理解し対応を工夫、勉強を行っていく。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室には、鍵自体ついていない。玄関は日中鍵をかけないようにしている。出る際に声をかけてもらうよう配慮している。万が一ひとりで出られた場合は玄関にチャイムがなるようにしている。		
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室する時は必ずドアをノックしている。リビング内には入居者だけにならないよう配慮している。リビングからは廊下の様子が分かるようガラス張りになっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品は鍵のかかる場所に保管。ハサミや包丁は力に応じ使用していただくよう支援している。		
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを記入し、事故につながらないようにその都度話し合っている。特に誤薬に関しては確認作業を念入りに、力に応じ職員が口の中に入れるようにし、嚥下まで見守りをしている。		
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変、事故発生時のいろいろなパターンを想定して勉強会を行っている。	○	回数を増やし全ての職員が動揺最小限で対応できるようにしたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署員参加のもと、通報装置、避難経路、消火方法など指導してもらっている。	○	最近の大雨の際、地域の区長が訪問していただき、万が一避難することになった場合の場所など教えていただいた為、今後も協力を得られるよう、訪問し依頼する。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族との情報交換によりリスクへの対応を話し合い出来る限り少なくなるよう配慮している。		
	(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝のバイタルチェックで体調を把握し一人ひとりの様子観察で異変に気づいた場合は速やかに対応している。要観察においてはこまめにバイタルチェックを行っている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服用薬カードにて理解し、症状に変化が見られた場合はすぐに担当医へ連絡、指示をもらっている。		
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日、排便チェックし、水分量、運動量の工夫働きかけを行うと共に食事の工夫をしている。(食物繊維を多めに)、それでも改善しない場合は医師へ相談の上、服薬調整をしている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	夕食後重点的に口腔ケアを行っている。訪問歯科により月3回の口腔ケアを実施している。	○	朝食後、昼食後のケアも力に応じ行う。
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、食事摂取量チェックを行い、摂取量が少ない場合は柔らかくしたり、小さくしたりして工夫している。昼食・夕食は検食をしており、栄養バランスもチェックしている。食事時、入浴後、外出から帰られた時など水分を摂ってもらっている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防マニュアルを置き機会ある毎に目を通している。毎年インフルエンザの予防接種実施。排泄物処理の際は必ず使い捨て手袋を使用し、手洗い後スプレー消毒している。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	1日1回は調理器具の消毒を行い、冷蔵庫内チェック表をつくり週1回消費期限のチェック、掃除をおこなっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	庭に四季折々の花や野菜を育て出入りの際の話題になっている。また家族より苗を頂くこともありコミュニケーションを図る場のひとつにもなっている。		
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花、廊下には絵画や入居者や職員のスナップ写真を飾り生活感をだしている。3月は雛人形、5月は兜かざり夏には風鈴を下げるなど季節感を採り入れている。生け花の得意な入居者には季節の花を生けて頂いている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	「ひとりほつちの部屋」を確保。冬になると囲炉裏(火は不使用)も出現。リビングにはソファをおき、利用者同士がいつでも並んで過ごせるようにしている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族からの情報により使い慣れたもの、好みのものを持ってきて頂いている。誕生日のお祝いにプレゼントした色紙なども飾ってもらっている。		

番号	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室やリビングに置いている温度計を確認し利用者の声を聞きながらこまめに温度調整、換気を行っている。		
	(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには手すりを設置しており、出来る限り自力歩行ができるよう支援している。廊下は広くとり車イスや歩行器も安全に通行できるようにしている。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の力を見極め、発せられた言葉に否定をしないよう心がけている。居室のドアに表札をかけ、浴室、トイレなども混乱のないよう案内板をとりつけている。混乱がおきた場合は何度でも口頭で説明している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭の畑に季節の野菜や花を植えることや成長、できた野菜や果物を採るなどの楽しみ、また畑の周りは散歩コースになっており、車イスの方も一緒に楽しめるようにしている。		

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に○印をつける)
v サービスの成果に関する項目		
90	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者の 《 》②利用者の2/3くらいの 《 》③利用者の1/3くらいの 《 》④ほとんど掴んでいない
91	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	《 ○ 》①毎日ある 《 》②数日に1回程度ある 《 》③たまにある 《 》④ほとんどない
92	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
93	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
94	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
95	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない

番号	項 目	取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
96	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	《 ○ 》①ほぼ全ての利用者が 《 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
97	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	《 ○ 》①ほぼ全ての家族と 《 》②家族の2/3くらいと 《 》③家族の1/3くらいと 《 》④ほとんどできていない
98	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	《 》①ほぼ毎日のように 《 》②数日に1回程度 《 ○ 》③たまに 《 》④ほとんどない
99	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	《 》①大いに増えている 《 ○ 》②少しずつ増えている 《 》③あまり増えていない 《 》④全くいない
100	○職員は、生き生きと働いている	《 ○ 》①ほぼ全ての職員が 《 》②職員の2/3くらいが 《 》③職員の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
101	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての利用者が 《 ○ 》②利用者の2/3くらいが 《 》③利用者の1/3くらいが 《 》④ほとんどいない
102	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	《 》①ほぼ全ての家族等が 《 ○ 》②家族等の2/3くらいが 《 》③家族等の1/3くらいが 《 》④ほとんどできていない